

平成22年度 横浜国立大学大学院国際社会科学研究所
専門職学位課程 法曹実務専攻（法科大学院）

法学既修者認定試験問題

刑 法

配点 100点

時間 90分

※ 試験開始の合図があるまで、
この問題冊子の中を見ないこと。

問題 1

病院の医師 X は、その入院患者の A がかつての恋敵であることに気づき、その恨みから A を殺害する目的で、A にとっては禁忌である薬品を、通常の点滴薬に偽装して看護婦 Y に渡した。

Y は A に投与する直前に、その偽装に気が付き、かつそれが A にとっては禁忌であることを知っていたが、A が文句の多い患者で日頃から苦勞させられていたこと、かつ、Y は X にほのかな慕情を寄せていたこともあって、これで A が死亡してもその原因が発覚しなければ、X に貸しをつくることになって、自分に好意を寄せてくれることになるかもしれないし、また反面、発覚すれば「自分は知らなかった」と逃げおおせると思って、X に告げることなくそのまま A に点滴投与し、A を殺害した。この場合の、X と Y の罪責を論ぜよ。

(配点50点)

問題2 次の事案において、甲の刑事責任を論じなさい。

原動機付自転車に乗った甲は、歩行中のAに背後から接近しそのハンドバッグを奪った。ハンドバッグはAの手から簡単に抜けた。すぐに気づいたAはあわてて甲を追いかけたが、5、6歩走ったところで足がもつれて転倒したため、そのまま見失った。Aは加療3週間を要する骨折を負った。

甲は、ハンドバッグに入っていた現金5千円のほか、B名義の残高400万円のM銀行預金通帳、印鑑および健康保険証を見つけた。健康保険証からBがAの夫であることがわかった。奪った現金が少なかったため、甲はBを装い預金通帳、印鑑および健康保険証を使って銀行窓口から現金を引き出そうと考えた。Aのバッグを奪ってから約30分後約3km離れたM銀行N支店窓口で、Bを装って300万円を引き出すために、払い戻し請求書を作成し提出した。しばらく待っている間に、Aからの通報と銀行からの連絡を受けた警察官Cが入ってきたのを見て、Aからハンドバッグを奪ったことが発覚したと直感し逃げ出したが、Cに遮られたため、逮捕を免れようと、持っていたナイフでCの足を突き刺そうとした。しかし、Cにかわされて取り押さえられた。

(配点50点)